





# 森林共生住宅のすすめ

## 建築家 落合俊也

森林・環境建築研究所  
国際自然・森林医学会理事



数式で表わす「自然」と「生命」

$$P \propto f^n \quad (n=1)$$

「生命」と「自然」の正体が同一の数式で示されるとしたら驚きである。

人間が自然の一部であることを否定する人はあまりいない。人間は自然という大きなジグソーパズルの中のひとつのピースである。だれもが感覚的にそう思えるのは、自分が自然と同じような生命を持った存在であり、機械とは別物であるという自覚があるからに違いない。

では自然とは何か？生命とは一体何かと聞かれるとすぐに答えられる人は少ない。動的平衡という言葉は、生物学者の福岡伸一さんの名付けだったと思うが、この言葉から私は定常波のリズム波形を連想し以下のように気が付いた。

私たちの体の中はリズムで溢れている。心臓や脳波のリズム以外にも、各臓器は固有のリズムを持っているし、体温変動やホルモン分泌にも日内変動リズムがある。鼓膜や瞳だって細かく振動している。これらのリズムは、決して独立に勝手なリズムを刻んでいるのではなく、お互いに密接に関連しあっている。多変量のお互いがレジリエンスを持って関連しあう複雑なリズムには独特なゆらぎが生まれ、



写真1-1



写真1-2



写真2-1



写真2-2

※上記写真は、森林・環境建築研究所により撮影されたものです

（写真1-1） ゆらぎにあふれる太陽と緑の光空間、それを内部化する住居の設計が求められている。  
（写真1-2） 明けの朝日の来る方向と反対側の西側からブルーライトは、体内時計をリセットし交感神経を活性化して活力を生み出す役割をする。一方で夕方からの赤い光は、副交感神経を優位にして体をリラックスモードに変える。太古の昔から行ってきた人間と太陽との同調関係を最大限に作り出す住まいの設計は住人の健康に大きく影響する。  
（写真2-1、2-2） 住居の柱や梁の寸法は規格統一されたものでなく出来るだけランダムで、素地のままのほうが森のメタファーとして感受しやすくなる。仕上げも職人の手作業の痕跡が残るような仕上げが良い。一流の左官職人による土間や壁の仕上げに見られるゆらぎのリズムが皮膚を通して住人に伝搬する。

たのだから、私たち人間がその環境を心地よく感じるのは当然のことだろう。  
一方で、私たちの住む都会に溢れる様々なリズムは、太陽リズムとまったく無関係の機械的で偏りのあるリズムで、これは生命には相れない性質のリズムである。  
命の本質が自然のリズムと同調した動的平衡、すなわち定常波リズムであるとしたら、私たちの住む都市環境や住居環境が持つリズムは、それと相れないものになっている事に注意を払うべきだろう。  
**森を感じるとる皮膚感覚**  
都市に住む私たちが森林環境に入ると、体にどんな変化が起こるのだろうか。  
私たちは、身の回りの環境情報を統合して処理しているのは脳だと思いついてしまっているが、どうも脳だけでは足りない。皮膚の表皮ケラチノサイト内のレセプターが、脳に先立って接触している外部環境の変化を察知し、体に直接その環境対応への指令を出しているらしいのだ。それだけではなく、皮膚は音も光も周波数の違いとして感じ取ることが出来る。においや味を感じるのも、特化した皮膚の一部である味蕾や嗅覚細胞であることを考えても、皮膚は全ての器官を統合する最大であり最重要の感覚器といつてもよいだろう。  
さらにまた、自然の神秘に対して畏怖の心や恐れを感じるのも皮膚という感覚器らしい。だから、現代人のように皮膚感覚が退化すると、自然への畏怖の心も育たなくなってしまうのである。  
人間は結果として丸裸の皮膚を使い上手に環境適応を行い、脳を発達させて他の生物に抜きんである進化過程を生きて繁栄することが出来た。皮膚はその点においても人間の繁栄を生み出した最前線の器官といつても良いだろう。  
ところが問題は、現代は衣服と建築設備のせいで皮膚感覚の出番がなくなってきた事である。目と耳という強力な器官に比べて皮膚感覚が地味な立場に甘んじているのは、私たちの皮膚の外側の第2の皮膚である服と、第3の皮膚である住居、さらに第4の皮膚といえる都市環境のせいとその役割を封印されてしまったからだだろう。  
いくら温かい家があっても太陽リズムが作り出す外の自然と、同じく太陽リズムが作り出す人体の中のリズムは繋がっていない。真の健康を得ることは出来ない。一律の快適感を求める現代建築環境の方向性を正して、体の内と外を繋げるインターフェイスとしての皮膚と同じ立場で衣服や住居を作るといった新たな視点が求められている。

これらのことを主要テーマに、ある住居計画が水輪の近くで進められている。完成の暁にはぜひ訪れていただき、森のリズムと命のリズムの同調を建築を通して体感していただければと思う。私たちが都会を離れて自然の森に来る目的は、私たちの人体にとって理想的な環境カプセルである森の環境リズムと、私たちの体内のリズムを同調させる皮膚感覚を取り戻すこと。そのことで、同時に自然に対する畏怖の心を育て、体と心の真の健康バランスを取り戻すことが出来るのである。

（写真3-1、3-2） 木の年輪のリズムと一流の職人の手仕事が生み出すゆらぎのリズムは共通している。したがって同じリズム同士が同調することによって職人には納得と満足感が生じるのである。  
（写真3-3） 土壌とのつながりも重要。体内微生物と健全な土中環境が育む微生物のつながりも実質的な自然と人間のつながりといえる。健全な土中環境の創出には土中水脈と空気の循環が不可欠である。土中の水脈や空気の流れを地形や植生から読み取って土中環境の整備をすること。このことが建築工事において重要なステップであることが現代ではまったく忘れられてしまった。  
（写真3-4） 土中環境の微生物と我々の体表面の微生物環境は連続している。さらに体表面微生物環境は腸内微生物環境に連続している。だとすると健康な土壌環境を創出し、その上の建築内部の微生物環境とつながりを持たせなければならぬ。建物が高層化するほど建築内は土中微生物から離れた別の微生物環境になることが分かってきている。現代の建築工法では地盤工事は土中環境を破壊することから始まっている。健康な土中環境を整え、それに呼応する建築を作る新たな工法を開発するべきだが、それには伝統工法から学ぶところが多い。

そのゆらぎは数学的に記述が可能となる。その数式は、 $P \propto f^n \quad (n=1)$  ①  
というもので、その意味は「パワースペクトルは振動数のn乗に比例し、自然と生命リズムの場合nの値は「1である」ということになる。」  
（\*）このゆらぎの持つ規則性の式①についての詳しい記述は拙著「すべては森から」（建築資料研究社）を参照してください。

べての環境要素は関連しあい複雑だが調和的なリズムを作っている。したがって、ここにも体内リズムと同じ原理で生まれるあのゆらぎがある。そして、このリズムも太陽のリズムを根拠としていること言うまでもない。  
すなわち、人体の生命を構成するリズムと自然環境の変動リズムは同じサーカディアンリズムで、かつ同じ性質のゆらぎを持っている。ということは、自然の作り出すリズムと人体が作り出すリズムは同じものであり、それ故に生命と環境は一体であるといえるのだ。  
**人と森の同調原理**  
人と森の関係に関して、さらに重要なことは「同じリズムは同調しあう」という物理法則である。私たちはリズムの同調とエネルギーの交換という物理的概念によって、生命と森林のエネルギー的な繋がりが理解することが出来る。環境リズムと生命リズムとの同調原理をもう少し詳しく見てみよう。

同じ波動同士は繋がるとい物理現象である。ラジオをチューニングすることで空中の電波を捕えるのは、そのラジオ自体が同じ周波数の弱い電波を出すからである。同じ周波数の電波は繋がることが出来る。この物理的原理を同調という。  
森林の持っている様々な環境リズムは、太陽リズムから生じている事はすでに述べた。さらに、そこに住むすべての生物の生命リズムも太陽リズムに同調しているのだから、森に住むすべての生物の発する声や活動エネルギーの周期も皆同調関係にあるといえる。つまり森林は、その環境リズムも生息生物の体内リズムも、すべてが同調する完璧な調和空間なのである。

このことは、比較的静寂な日本の森の中では気が付きにくいが、多様性が豊かで強い光と音に溢れる熱帯雨林の森の中だと容易に気付くことが出来る。日本人はなぜか熱帯雨林を嫌う。その字面からあまり良いイメージを持ってないの理由だろうか、実際の熱帯雨林はとても快適な森であることが多い。熱帯雨林は人類発祥の場所であり、その環境に対応するようにヒトの遺伝子は進化してきた。



写真3-1



写真3-2



写真3-3



写真3-4

※和久倫也 WAKUWORKS 株式会社により撮影



# 安らぎの境地へ至る魂の解明

## 五島秀一

物理学者  
中小企業診断士  
宇宙哲学研究家、気の舞舞踊家  
(一財)秀物理学研究所代表



年数を重ねたそれすら味わえない人がいることを知って愕然とする。ゆえに、星の瞬き、風の梵（そよぎ）、花が風にそよぐ様を見たとき、川のせせらぎを見たとき、幼な子の笑顔を見たりして癒される者は少ないのだ。

誰もが人生の重荷を理解してもらいたいと思う。心無い言葉を言われると大いに傷つく。それほど、私たちは長い長い人生という砂漠を経る過程で、実に魂は喉がカラカラになるが如く渴いているのだ。十字架で息を引き取る直前に、かのイエスキリストも言ったではないか。「我は渇く」と。しかし、生きていく間に自分の人生が価値多きものであったと納得せず死にまかすれば、これほど悲しいことはない。

しかも私たちは、いつ自分の死がやって来るかを完全には予測することができないのである。ゆえに、ここに問題が起きる。何を自分で自分の人生を幸せと断定することができようかと。もちろんそれは、年齢や職業、経験によって違ふ。君は今、人生の幸せを総括する時期にきている。自分の長いよう短かった人生を振り返り、これを幸せと言えるか、不幸せと言えるか、あるいはそんなに単純に割り切れるものではないのか。

君の心を満たすものは何か？あるいはほつかりと空いた穴を埋めるものは何か？君にとって最大限に価値のあるものは何か？それは人か物か出来事か？

君は実に不思議な魂である。人生の様々な悲哀や喜びを経験しながら、なおかつ、そんな自分を違うところから見ている自分を感じている。君は自分の人生を演ずる役者であると同時に、君の人生という物語を読む読者ですらある。

いいかね、君はかつて幸せな結婚生活を夢見て、そしてそれが実現したかに見えた。しかしやがてそれが大きな悲劇を生んだのだ。君は幸福を演じようとした。つまり人生の役を演じようとしたのだ。幸福な女の人生を。

しかしね、君は今、本当の自分に気が付く時期にきているのだ。君は本当は幸せになることを求め

ていたのだろうか？周りの人が幸せを求めているから自分も幸せを求めなければいけないと、そんな風に思ったのではないのか？

いいかね、今こそ君は自分の魂の声を聞きなさい。君が目指したものは、幸せというもので一括りにできるような状態ではない。では何を求めていた？人はこの世に生まれるからには、何かを求めてこの世に生まれてきたという事は事実である。そして多くの人はそれは幸せだと言う。

本当にそうだろうか？全人類がこの課題に直面しなければならぬのか？もちろん、不幸せを求めている人間は一人もいない。

いいかね、20世紀はね、私たちが人間が幸せになるために生まれてきたと勘違いし、しかもそれを物質的な条件に置き換えたのだ。広い家に住み、大きな財産を持つ。

いいかね、21世紀、そろそろ私たちは本当は何を求めようとしているのか。全人類が新しいステージに到達しようとしているのだ。

いいかね、如何なる哲学者もこの問いに答えてはくれない。一人ひとりが胸に手を当てて、何を求めているのか、これを考え直す時期にきているということだ。

いいかね、もし幸せを単純に求め、なおかつそれだけが人間の願いなら、慈悲深き神はとうの昔に幸せを与えているとは思わないかね。人間の親ですら本当はお菓子を与えたくないのに、必死でお菓子が欲しいと言えば、お菓子を与えるではないか。我々以上に慈悲深き存在が、私たちの叫びを無視したもうわけがないのだ。



五島先生による気の舞・気功演舞

よいか、今回のタマヒリは君の前世でも来世でも天国でもない。君の魂の解明だ。

20世紀、私たちは大きな勘違いをして生きていたのかもしれない。人は誰もが幸せになりたい。そんな単純で浅はかな一言で、全員が人生を一括りにしてしまった。そして、未だ幸せになつていない人、可哀想な負け組としてレッテルを貼つたのだ。果たしてそんなものだろうか？

例えば、西洋人の人生観の根底には新約聖書があるとよく言われるが、だが新約聖書を深読みした人間が何人いるかね？新約聖書を深読みしたまえ。しからばイエスが聖書の各小節ごとに次の言葉を発していることに気が付く。「私の平安をあなたの方に送る」と。幸福という言葉は使っていないのだ。

この証拠に私達は注目すべきである。私達は新約聖書を勘違いして解釈した。しかもそれが約2千年も続いたということだ。

彼が聖書に於いて最大のポイントを置いたのは平安、サンスクリットではシャンティという。これからあらゆる哲学、宗教、信条、経営が根底から見直されるときが来る。本来の目的に立ち返った者だけが、全ての闇を反転して光の世紀を築くに違いない。ゆえに私は次のように力説する。

君の魂は、紛れもなく今日の人類への紛れもなく提言を続けているのだ。

人の魂は実は平安を求めている。幸福の絶頂でもなく、踊り上がるような喜びでもない。幸福ならば、種々の物質的な条件が必要だろうか。豊かさ、友達の数、人から褒めら



愛と思いやりに満ちた五島先生の講義

れた数。だが平安は違う。人の助けを借りない。自ら作ることができる。幸福という言葉は舞い上がらせる。平安という言葉は私たちが落ち着かせる。

幸福は自分よりも成功した人間を見るとついその人間を真似したくなる。しかし平安は違う。他人がどれだけ成功しようと失敗しよう、と、当人にとっては全く関係のない出来事なのだ。当人自身の生活に、深く根を下ろし、自分自身を生きて。これが平安という言葉の持つ威力である。

君は、同世代の女性とはずいぶん変わった人生観を持っていると、自分でも思っているし、周囲の人間も思っているに相違あるまい。しかし、そんなことはどうでもいことだ。私は直ちに君の魂の核心に迫ろう。

君は安らぎを求めていた。君の元夫は幸福を求めていた。しかし、君は違ったのだよ。君は安らぎを求めていたのだ。その違いがはっきりと分かったのは、残念ながら結婚して時間が経つてからのことだった。しかし、それは失敗だろうか？ここで話すべきは、成功と失敗の定義を宇宙的にしなければならぬ。君は君自身の魂の本質に気が付き、自分が本当は何を求めているかを知って、そこに立ち返ったときを成功と名付けるなら、君の人生は成功だらけなのだ。ゆえに君は自分の人生を総括し、このように句読点を打ち給え。

私の人生は安らぎを求めていた。この原点に立ち返ることができた私の人生は実に成功だらけである。このように気が付くれば、

君の潜在意識は直ちに活動を起こし、自分のこれまでの生活のどこに安らぎがあったか、何が幸せであったか？何が幸福であったか、何が安らぎであったか、直ちに分別を始めるだろう。

そして、私が申し上げた通り、君の潜在意識は直ちに活動を起こして、君の人生の過去の出来事の数々の中から、安らぎというジャンルに君の人生が傾斜していたことに気が付くだろう。他の女性と、生き方が変わっても、そんなことを気にする必要は全くないのだ。何度も言うが、君の魂は安らぎをこそ求めていた。この安らぎを得るのに多額の金品は必要としない。

いいかね、本当に大切なものはお金では買えないのだ。あと数年で全人類がこのことに気が付く。先んじて君はこのことに気が付く。そして君の魂を落ち着かせよ。私たちはまだ、自分の魂を落ち着かせることに慣れていない。魂は常にふわふわとして、自分の目的以外の物に興味と関心を移し、人生の大半を無駄に過ごす。

何度も言おう。君の魂は安らぎをこそ求めていたのだ。それは君だけではないぞ。先駆者としての魂は皆かような基準を持っている。ただそれを世間の誰もが指摘しなかつただけだ。この地球に生まれただけでも、生まれ変わりの最後に気がつかなければならぬ大切な事実、魂は幸福というより安らぎを求めているということだ。そしてそれは、他の誰の助けも借りずに自ら作ることが出来るし、またそうしなければいけないということだ。

神よ、今、この者が人生の暗闇の中に差し込んだ一筋の光明を手掛かりに今、新たな人生を築こうとしております。そして、この者にとり、今の私のこの言の葉が大いなる助けとなり、新たな人生を切り開く縁（よすが）となりませうように。世界の温もりの根源に触れよ。

まず、第一に生活のすべてを祝福しよう。自分がこの世に生まれ、たことを祝福しよう。色々なことが次から次へと起きたが、にも関わらず、君は持ち前の快活さと親

切心で乗り切った。まず、それを祝福しよう。父と母の出会いがあり、幼少期を経て、類稀な知的好奇心、明るい楽天的な心と、世界のあちらこちらを旅して周り、青春の踊り上がるような喜びを経験し、このままラストシーンを迎えるかと思いきや、最後に到達するのは深い安堵に満ちた安らぎの境地なのだ。人はいづれ、この世を去らねばならぬ。去つてあの世に帰ったとき、何が起きるか教えてあげよう。自分の知識も経験も、すべてを天使に捧げる。その上で天使は、最大の歓喜を私たちに与えてくださる。

君が今住んでいる家を、天使の館としなさい。天使が住み給うならこんなリビングに住みたもうだろう。天使が好みそうな絵とは何だろうか？天使が好みそうな皿とは何だろうか？

いいかね、女性というのは男性に好き勝手に弄ばれて、被害者意識だけで終わる人生ではないのだ。太古の時代はそうではなかった。実に喜びを創り出す原動力であった。

光が広がりますように  
神よ、光を広げたまえ  
光を差し込みたまえ  
宇宙の天上の光を

五島秀一（ごとうしゅういち）略歴  
一般財団法人秀物理学研究所代表理事、物理学者、中小企業診断士、経営コンサルタント、超越気功協会会長、歴史波動研究会会長、気の舞舞踊家。  
広島大学理学部数学科卒業。大学時代より、宇宙の秩序と調和を見出す宇宙論を研究。30年近くにわたり、科学者として地球環境問題、気功家として人々の心身の問題を解決するため揺るぎない利他の精神をもって活動し続けている。幼少の頃より、類稀な霊的能力を発揮。宇宙高次元との確かな繋がりを、数々の奇跡や様々な超能力を発揮するも、人としての生き方を説くことに重きを置いている。



# 直観力を磨く

退化した能力を呼び覚ます

感じるとういふこと



感覚感知学研究者  
**細金勝治**

公益財団法人いのちの森文化財団評議員  
(株)とやの健康ヴィレッジ役員



私は畑の専門家ではないのですが、ヒントとして使えようと思ったり、それをうまく活用してもらえればと思っています。

私は畑の知識はまったくありません。だけど感じるのです。これは使えば元気になる。使わないと衰える。感じるというのは第六感や七感のことですが、こういったことは義務教育の中ではまったく教えません。私たちは生まれてから約80年、スーパーコンピュータである脳の機能を10%くらいしか使っていない。もしスマホを電話機能しか使っていないとしたら、すぐもつたいないことですね。

また虫やコウモリは私たちに聞こえない超音波を聞けますが、私たちが低い音しか聞こえない。虫や鳥は私たちの5倍も6倍もの音が聞こえています。それと同じように、本来私たちは縄文時代にはそういう能力があったのです。花や虫、動物、野菜の声を聞くことができませんでした。でも今の私たちはその能力が退化してしまいました。ただそうした能力を呼び覚ますことなのですね。そうすると色々なことを感じられる。感じたこと

を実際に検証して試してみても、「やはり正しかった」となれば、その感じたことは正しかった、ということになります。野菜を感じてみる、土を感じてみる、この感じるという能力が、感性が上がってくとわかるようになるのです。それが響いてくるようになる。

**すべては響くかどうかである**

私たちの社会はすべて響くか響かないかだけです。響かなかつたら何にも変わらない。すべてが受信と発信。テレビというなら、電波を発信しても受信者がそれを受信しなければテレビは繋がらない。これは私たちの健康も同じように、変わるかどうかは共鳴するかしないかだけなのです。自然界には絶対に一方通行はありません。私は自然のしくみや法則を一生懸命に勉強しておりますが、私たちは自然の産物なら自然のルールに生きるはず。でも残念ながら私たちが社会文化は自然の中に生きていない。自然界は全部アナログです。でも私たちの生きていく文化はデジタルです。だから携帯やスマホなどのICと私たちの脳のコンピュータは合わないのです。

私たちの神経細胞が犯されるのは、デジタルとアナログで相性が合わないから。ではデジタルとはどういうものか。わかりやすく説明するならばデジタルの方が都合がいいのです。アナログは1から50に飛ばない。でもデジタルは1だったものが10になったり50になったりする。山の風景は赤、青、オレンジなどのように区切っていない。切れ目がありません。これはわかりにくいから、色を区切ったりしているわけです。今の私たちの文化は自然界ではない。自然界は必ず表と裏がワンセットであり、表だけほしいと言っても無理なのです。裏が必ずくっついてくる。

**自然界は「愛と調和」で成り立っている**

自然界の究極の法則は、「愛と調和」です。だけど愛よりも実は調和のほうが大事なのです。それはなぜか。調和は表と裏でしっかりと

どうまくバランスをとっている。自然界は調和が取れるように動きます。しかし私たちは表が良いものであると見たら、裏が悪いこととして見てしまう。そうすると良い人と悪い人はワンセットなので、悪い人をなくそうとしてもなくならないわけです。裏という影をなくすためには、表という光をなくさないといけない。この仕組みがわかれば、片方をなくすのではなく、うまく生存して影響を受けないうようにすればいいということがわかります。自然にそって生きればいいのだというのが分かってくるのです。

私たちが病気になる、水を電気分解してアルカリ性と酸性に分けることがありますが、アルカリ性というのは体を還元しますが、酸性水はその反対になります。アルカリ性の水がほしいと言っても必ず酸性水が出てくる。それでアルカリ性の水を飲むと、酸化した体は元気になるが、偏った水ばかり飲みすぎるといけないのです。最後はまた中性に戻していく。でも人間が作るものは必ず偏っています。中性が少ない。うまく使えば良いのですが、過剰に使ってしまっています。食品にしてもサプリメントにしても、例えいいものであっても、過ぎた摂取は害になるのです。

**自然界は同じものを作らない**

そして最後は相性が大事です。今世界人口が80億人になっていますが、自然界は同じものを一つも作りません。似ている人はいます。同じ人間はいます。でもこのと合うものが違います。でもこれが自然なのです。もし「これは誰にでも合う」というものができたら、それこそ不自然です。今日の私と1週間後の私は違う人であり、諸行無常と言いますが、常に変化しています。1年前の自分と今日の自分はまったく別の別人。合うものが違ってくるのが当たり前なのです。

例えば、私たちの社会では契約書というものを書きますが、なぜ書くのかというと、心が変わるからです。変わるのが当たり前なのに、この世の中は変わらなくて困るから、ハンコを押して契約するわけです。でも本来は変わるのが自然であり、心も体もすべてが変わり、変わると自分に合うものも変わります。

例えば先日、ちよつと体調が悪いという人がいたので、その人をよく見てみると、体に合わないものを食べていることがわかりました。でもその人は悪いものは食べていないというので、何を食べているのか詳しく聞いてみると、実は納豆を朝昼晩の3回食べていることがわかりました。納豆自体は悪くはないのだけれども、食べ過ぎたら良くないわけですね。



細金先生の熱い講義に皆真剣です

またサプリメントはすごく怖い面があります。サプリメントは栄養補助食品であり、不足している栄養を補うためにとる食品です。この1つの錠剤の中にレモンが百個分とか、アサリ50個分とか書いてあります。本当にいいところのみを抽出しているわけですから、飲み方を間違えたらものすごく体に悪いということがわかっていないのです。飲み方を間違えたらすぐかかると言われる。だから1週間飲んだら飲むのを休んだほうがいいかどうかをチェックする、2週間飲んだらまたチェックする。ここが大事なところをやっていません。

もつと細かく言うと、「あなたはリンゴは食べないほうがいい」「海藻が合わない」「豆乳ヨーグルトならいいけれど、チーズやバターは腸内細菌と相性が悪いのでこうしたほうがいい」というのがあるのですが、この辺のことはほとんどはわかっている全部わかっています。虫や鳥はそれを感じ取ります。ほぼ間違えませんが、渡り鳥にしても電波を受診発信しながら飛んでいます。そういう能力を本来は私たちが持っているのだけれども、ほとんど退化してしまっています。それを少しでも呼び覚ますには訓練が必要です。

**野菜や土と交流する**

ではどうすればいいのか。まずは鉱物、植物、動物などと自分と交流なんてできないと思ってしまうとできません。人間は思った通りになる。だから野菜や土とコミュニケーションをしようと思えばできます。毎日そういう気持ちで植物や土と接すると、だんだんその回路が開けてくる。そうすると、「今日の野菜は元気がないな」などのことが伝わってきます。これが本来は人間が持っていた能力の一つです。これをやっていたのが縄文時代の人たちです。だけど弥生時代になると、知識の方が優先されてしまい、感性を使わなくなってしまう。筋肉も1か月2か月入院したら、ものすごく落ち

ますね。退院してから筋肉を元に戻すには1年も2年もかかってしまいます。落とすのは簡単ですが、作り上げるのはとても難しいのです。退化したものを呼び起こすのは簡単ではないのですが、渡り鳥たちはその素質は持っているということ。野菜が語りかけてくるのです。私はもう高齢であとどのくらい生きられるかわからないけれど、若い皆さんはぜひ、自分のスーパーコンピュータを研ぎ澄ましてください。そういうことをやっていくことがこれからの世の中には必要なのです。

**公益財団法人いのちの森文化財団からのお知らせ**

公益財団法人いのちの森文化財団では、以下の公益目的事業への寄附金を募集しています。

- ①「高齢者のための生きがい創造基金への寄附」
- ②「青少年の社会復帰と自立のための育成活動への寄附」
- ③「東日本大震災被災地の子供たちの教育を支援する活動(保育園へのお野菜支援含む)」
- ④「いのちの森の会費(一般寄附)」

※当財団への寄附金及び会費は、特定公益増進法人への寄附金として、所得税・相続税・法人税の税制上の優遇措置があります。また一部の自治体では、個人住民税の寄附金控除の対象となります。(詳細は善意の循環のチラシをご覧ください)

宇宙本体と繋がっている  
普遍的な深い意識感覚を体感

**直観力養成講座**

**細金勝治先生**

2023年  
第1回目 6月10日(土)～11日(日)  
第2回目 10月14日(土)～15日(日)

ますね。退院してから筋肉を元に戻すには1年も2年もかかってしまいます。落とすのは簡単ですが、作り上げるのはとても難しいのです。退化したものを呼び起こすのは簡単ではないのですが、渡り鳥たちはその素質は持っているということ。野菜が語りかけてくるのです。私はもう高齢であとどのくらい生きられるかわからないけれど、若い皆さんはぜひ、自分のスーパーコンピュータを研ぎ澄ましてください。そういうことをやっていくことがこれからの世の中には必要なのです。

**宇宙の叡智を地球と人類の目醒めのためにシリーズ5**

2023年5月4日(木・祝) 12時～ 7日(日) 12時半

五島秀一先生：基調講演「宇宙と人間の歴史から、今後を展望する」  
白鳥哲監督：基調講演「祈りのとき 霊性進化の鍵はバイブレーション(振動)」  
光田秀先生：基調講演「《神》との親しき交わりを生きる」  
森井啓二先生：基調講演「魂を輝かせるために-真理を見るには自分の内側を探求すればよい。」

特別出演 Shaylee Mary氏  
「自然と人との繋がりを大切に、愛と調和と平和への願いを込めながら活動」  
塩澤みどり：「宇宙の叡智を地球と人類の目醒めのために、霊性を開くシリーズの主役」

五島秀一先生

光田秀先生

白鳥哲監督

Shaylee Mary氏

森井啓二先生

塩澤みどり